

## シラバス

指定番号 122

商号又は名称： 社会福祉法人さつき福祉会

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険法で位置づけられている介護サービスを理解する。</li> <li>・介護の仕事における就労環境や、仕事内容を具体的に理解する。</li> <li>・介護の職務の理念や基本的姿勢を理解する。</li> <li>・今後のカリキュラムに具体的なイメージを持って取り組めるようになる。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	3	3	0	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護」の概念を学ぶ。</li> <li>・介護保険制度で提供される介護サービス（居宅・施設）を学ぶ。</li> <li>・介護保険外のサービスを学ぶ。</li> </ul>
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	0	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業としての「介護職員」として働くことを具体的に学ぶ。</li> <li>・居宅、施設の多様な現場で働く介護職員の仕事内容や職場環境を学ぶ。</li> <li>・事例紹介を通じて、要介護高齢者の生活をその人らしく支える介護職員の役割を学ぶ。</li> <li>・介護職員の資格制度やキャリアパスを学ぶ。</li> <li>・視聴覚教材等を通じて、介護職員の具体的なイメージを理解する。</li> </ul> <b>【演習実施方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービスセンター、認知症グループホーム等を見学しながら、事業の特徴を学ぶ。</li> </ul>
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画出版「介護職員初任者研修課程テキスト」、DVD教材「職務の理解」 プロジェクター、パソコン
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 122

商号又は名称：社会福祉法人さつき福祉会

科目番号・科目名	(2)介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の仕事が深く人権に関わる仕事であると同時に、本質的には憲法で保障される人権を日常生活上で支援するという役割を理解する。</li> <li>・人権思想が、ノーマライゼーションやQOLという概念として発達してきた歴史と内容を理解し、身体拘束や虐待などの具体的な概念について学ぶ。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	3	1	2	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権について、世界や日本でどのように発達してきたかの概略を学ぶ。</li> <li>・日本国憲法における具体的な人権の内容について理解する。</li> <li>・QOLやノーマライゼーションの思想について理解する。</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 医療福祉分野における人権尊重。ノーマライゼーション。高齢者虐待防止法。高齢者虐待の特徴、防止。
② 自立に向けた介護	4	1	3	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立の概念について学ぶ。</li> <li>・自立を促す介護、介護予防について理解する。</li> <li>・介護者だけでなく、地域の役割についても考える。</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 自立の意味。エンパワーメント。QOLについて。民生委員。自立支援について。寝たきり老人ゼロ作戦。介護予防重要視の背景。介護予防事業。
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待、身体拘束等、人権を脅かす具体的事象について理解する。</li> <li>・権利が侵害されないためのしくみや制度について知る。</li> </ul> <b>【演習実施方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待、不適切な処遇の事例から、それを防ぐためにどうすればよいか、グループディスカッションにより検討を行う。</li> </ul>
④				
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 122

商号又は名称： 社会福祉法人さつき福祉会

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員に求められる専門性、役割、多職種協同の重要性を理解する。</li> <li>・介護職員の職業倫理を学び、仕事における責任や役割を理解する。</li> <li>・介護現場でのリスクマネジメントの概要を学び、業務上のリスクを理解する。</li> <li>・専門職としての健康管理や感染症予防、ストレスマネジメントについて理解する。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設と居宅の介護環境の特徴と違いを理解する。</li> <li>・専門職としての介護の視点を学ぶ。</li> <li>・他職種連携、チームアプローチの重要性を学ぶ。</li> <li>・介護保険外のサービスを学ぶ。</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 介護の対象と目的。介護実践の原則について。他職種との連携(チームケア)。介護に関わる職種。
② 介護職の職業倫理	2	1	1	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職としての職業倫理の理解を図る。</li> <li>・介護職員の社会的責任について理解する。</li> <li>・利用者、家族との信頼関係の必要性を学ぶ。</li> <li>・プライバシーの保護、尊重について理解する。</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 介護職の職業倫理。介護保険改正に伴う「地域包括ケア」。
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	0.5	0.5	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場におけるリスクマネジメントと安全確保を学ぶ。</li> <li>・介護事故における対応と事故予防の対策を学ぶ。</li> <li>・感染症の基本的知識と具体的な対策を学ぶ。</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 安全確保とリスクマネジメント。介護事故後の対応。
④ 介護職の安全	1	0.5	0.5	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員の健康管理と仕事の質について理解する。</li> <li>・介護現場におけるストレスマネジメントを理解する。</li> <li>・腰痛予防に関する基本的知識を学ぶ。</li> <li>・感染症対策における手洗い、うがいの重要性を学ぶ。</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 介護職の健康管理(腰痛予防)。感染対策(感染症予防)。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画出版「介護職員初任者研修課程テキスト」 プロジェクター、パソコン、手洗いチェッカー
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 122

商号又は名称： 社会福祉法人さつき福祉会

科目番号・科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度の理念や基礎的な知識と介護の専門職として役割と責務を理解する。</li> <li>・介護と医療の連携が図れるように、訪問看護・リハビリテーションの専門性や役割を理解する。</li> <li>・障がい者福祉制度の理念と基礎的な仕組みについて理解する。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3	0.5	2.5	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度創設の背景および目的と動向について</li> <li>・介護保険制度のしくみを基礎的に理解</li> <li>・介護保険制度を支える財源・組織・団体の機能と役割</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 介護保険制度の創設について。介護保険制度の動向。介護保険制度の特徴。保険システムについて（被保険者、保険料、保険給付）。要介護認定について。ケアマネジメント。居宅サービスについて。施設サービスについて。
② 医療との連携とリハビリテーション	2	0.5	1.5	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における医療と福祉の連携</li> <li>・介護職が行なう医行為</li> <li>・訪問看護・リハビリテーションの専門職の役割と機能</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 介護と医療の連携。保健医療の専門職。医行為に該当しない行為。介護職が認められる医行為。リハビリテーション。
③ 障がい者総合支援制度およびその他の制度	4	0.5	3.5	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者自立支援制度のしくみと基礎的理解</li> <li>・障がい者福祉の理念と構造</li> <li>・個人の権利を守る諸制度の概要</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 生活保護法。権利擁護（成年後見制度・日常生活自立支援事業・高齢者虐待防止法・障害者虐待防止法）。
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画出版「介護職員初任者研修課程テキスト」 プロジェクター、パソコン
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 122

商号又は名称： 社会福祉法人さつき福祉会

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者や家族とのコミュニケーション、関係作りのための基本的な態度、技術を習得する。</li> <li>・介護業務で必要となる報告・連絡・相談の意味を理解し、専門職としての役割を知る。</li> <li>・利用者や家族を尊重し、個々人の尊厳を支えるケアの実践を学ぶ。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	<b>【講義の内容】</b> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法 ・コミュニケーションの実際 <b>【演習実施方法】</b> グループワークを用いて、支援者、利用者の立場を理解する。 <b>【通信学習課題】</b> 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション。コミュニケーション技法。
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	<b>【講義の内容】</b> ・記録の意義・目的 ・介護に関する記録の種類 ・記録の書き方と留意点 ・プライバシーの保護と介護サービスの情報公開 <b>【演習実施方法】</b> 事例を用い、グループディスカッションを行う。 <b>【通信学習課題】</b> チームケア(カンファレンス)。障害別のコミュニケーション方法。バイスティックの7原則。記録について。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修課程テキスト
------------	-----------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 122

商号又は名称：社会福祉法人さつき福祉会

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	① 加齢や老化に伴う心身の変化（身体的・社会的・精神的な側面に着目した）を理解する。 ② ライフサイクル理解における老年期のステージの葛藤や発達課題を理解する。 ③ 高齢者に多い疾患と日常生活上の留意点を知る。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	3	1.5	1.5	<b>【講義内容】</b> ・ライフスタイル理論における老年期の葛藤・発達と老化について（喪失体験・防衛機制等） ・老化に伴う心身の機能及び外見の変化（知識・記憶・知覚・身体機能等）と日常生活への影響 ・死生観の確立と自己実現 <b>【演習実施方法】</b> ・高齢者疑似体験を通してグループワークを行う。 <b>【通信学習課題】</b> 老化について（老化と寿命、寿命、余命、知能、機能低下など）。生活習慣病対策、現状について。
② 高齢者と健康	3	1.5	1.5	<b>【講義内容】</b> ・高齢者の身体的老化と生活上の留意点（筋力低下・姿勢の変化・骨折・関節痛等） ・高齢者に多い疾病と対策（循環器障がい・老人性うつ・心気症・仮性認知症・誤嚥性肺炎等） ・高齢者特有の症状の現れ方と気付きの手がかり <b>【通信学習課題】</b> 高血圧症について。心疾患について。脳血管性疾患について。糖尿病について。老化や生活習慣病について。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 122

商号又は名称： 社会福祉法人さつき福祉会

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	① 認知症の基礎的知識を習得する。 ② 認知症ケアの理念を理解し、利用者の心理や行動に配慮した、人間性豊かな介護とは何かを学ぶ。 ③ 認知症利用者の生活に即したアクティビティ・ケアの学習や家族へのレスパイト・ケアを学ぶ。 ④ BPSDの対応について学ぶ			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①認知症を取り巻く状況	1	0.5	0.5	<b>【講義内容】</b> ・認知症ケアの理念（パーソンセンタードケア）について ・認知症の具体的なケースを知り、認知症介護における原則理解の必要性を認識する。 <b>【通信学習課題】</b> 認知症の定義。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	<b>【講義内容】</b> ・認知症の医学的な定義、評価スケール、原因疾患別認知症の種類と病態別ケアのポイント ・良性老年期健忘との忘れ方の違い・紛らわしい疾患 ・薬物療法・非薬物療法（認知症に対する心理学的援助方法） <b>【演習実施方法】</b> ・グループワークによる回想法の実施 <b>【通信学習課題】</b> 認知機能障害について。
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1	1	<b>【講義内容】</b> ・認知症の中核症状と生活障がい、講師の実戦経験もおりませた援助方法について ・BPSDの種類と対処、誘因となる不適切なケアや環境 ・認知症の進行に合わせた世界観の理解や多様なコミュニケーションの方法 <b>【通信学習課題】</b> 認知症の症状。認知症の利用者への対応。
④家族への支援	1	0.5	0.5	<b>【講義内容】</b> ・認知症の介護家族に対するアセスメントの重要性や、ストレスについて ・エンパワメントの重要性とレスパイト・ケアの実際 <b>【通信学習課題】</b> 認知症の利用者を支える家族の支援。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 122

商号又は名称： 社会福祉法人さつき福祉会

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の生活を支える法律や考え方を理解する。</li> <li>・それぞれの障害について、医学的にも理解を深め、介護における留意点について学ぶ。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	<b>【講義の内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の概念と基本理念について</li> <li>・ICFの考え方を学び、1人1人に合った支援について考える</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 障害の概念（障害者基本法・身体障害者福祉法における障害）。ICF。障害福祉の基本理念。
② 障がいの医学的側面の基礎的知識	1	0.5	0.5	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害と疾病について</li> <li>・視覚障害、聴覚障害はじめ、精神障害、発達障害などそれぞれの障害と介護における留意点の学習</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 各障害とその原因疾患（身体障害）。知的障害、精神障害、高次脳機能障害、発達障害の定義と原因等）。各障害の特徴及び介護の留意点。
③ 家族の心理的理解	1	0.5	0.5	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児・者の家族の心理</li> <li>・障害の需要</li> <li>・家族支援</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 障害者を支える家族の理解。
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修課程テキスト
------------	-----------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 122

商号又は名称： 社会福祉法人さつき福祉会

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<p>①介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的知識を介護の展開とともに、模型を使用した説明、講師による実演等により理解する。</p> <p>②サービス提供事例の紹介により、利用者が自己の生活に満足感や充足感を感じることができるようなQOLの高いサービスが求められており、そのためには介護職としての専門的かつ適切な技術が必要であること理解する。</p> <p>③イの④～⑪のような個々の生活場面の援助法として、根拠ある理解と介護技術の習得をする。</p> <p>④また、介護技術の提供時に必要な、本人の主体的意欲を引き出す自立支援のための、声掛けや介助のポイントを習得する。</p> <p>⑤個人の尊厳ある「死」を見据えた上での充実した「生」について考え、ターミナルケアの考え方や対応、介護職のはたす役割、他職種との連携を学ぶ。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
ア①介護の基本的な考え方	4	3	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護に関する専門知識・技術の必要性</li> <li>介護サービスの目的、個別支援の重要性について</li> <li>介護に関わる法律上の規定や考え方について</li> <li>生活支援としての介護サービス</li> <li>医療サービスと介護サービスに求められる役割の違い</li> <li>利用者主体の介護とは</li> <li>生活障害という視点を知る</li> <li>「生活の質」を高める視点の持ち方について</li> </ul> <p>【演習実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>演習方法：具体的な事例を用いて小グループでディスカッションを行う。</li> </ul> <p>【通信学習課題】</p> <p>記憶について。マズローの欲求段階。</p>
ア②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	3	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習と記憶の基礎知識について</li> <li>感情と意欲の基礎知識について</li> <li>自己概念と生きがいについて</li> <li>老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因について</li> <li>こころの持ち方が行動に与える影響について</li> <li>からだの状態がこころに与える影響について</li> </ul> <p>【演習の実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心や体の状態が本人に与える影響を具体的な事例をもとに小グループでディスカッションを行う。</li> </ul> <p>【通信学習課題】</p> <p>障がいの受容（段階・価値転換）。</p>
ア③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	4	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人体の構造と機能</li> <li>バイタルサインについて</li> <li>骨・関節・筋に関する基礎知識</li> <li>中枢神経系と末梢神経に関する基礎知識</li> <li>自律神経と内部器官に関する基礎知識</li> <li>高齢者のこころとからだ</li> </ul> <p>【演習実施内容】</p> <p>バイタルサインの測定</p> <p>ボディメカニクスを考慮した姿勢の実施</p> <p>【通信学習課題】</p> <p>人体の体表各部の名称。人体の機能。バイタルサインについて（正常値など）。人体の骨格と関節の名称。骨格筋の役割と神経の運動について。中枢神経について。自律神経と人体の内部器官について。</p>

イ④生活と家事	4	3	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事援助についての基礎知識</li> <li>・個々の生活暦や多様な価値観・生活習慣の尊重の重要性</li> <li>・主体性・能動性を引き出す自立支援</li> <li>・疾患別調理の工夫</li> </ul> <p>【演習実施方法】</p> <p>具体的な援助の失敗事例を用いて、少グループでディスカッションを行う</p> <p>【通信学習課題】</p> <p>調理の基礎知識（5大栄養素、献立作成・誤嚥防止など）。食中毒予防。衣服の役割。</p>
イ⑤快適な居住環境整備と介護	4	3	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な居住環境の基礎知識</li> <li>・高齢者や障がい者にとっての安全な室内環境</li> <li>・福祉用具の特徴と理解</li> </ul> <p>【演習実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークにて、居住環境のバリアフリー化について理解を深める。</li> <li>・福祉用具の特徴と活用方法について、グループに分かれ実技を交えながら理解を深める。</li> </ul> <p>【通信学習課題】</p> <p>住居の安全と事故防止。住宅の環境整備。</p>
イ⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	5	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整容に関する基礎知識、支援方法と留意点を講義。事例紹介を視聴覚教材を活用し理解を深める。</li> </ul> <p>【演習実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分かれて爪切り、口腔ケア、衣服の着脱を行う。</li> </ul> <p>【通信学習課題】</p> <p>整容について。口腔ケアについて。</p>
イ⑦移乗・移動に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	6.5	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動・移乗に関する基礎知識</li> <li>・廃用症候群について</li> <li>・利用者の身体状況に応じた介護技術</li> <li>・ボディメカニクスの基本原理</li> <li>・安全・安楽な移動・移乗について</li> <li>・さまざまな移乗・移動に関する用具とその活用方法</li> <li>・安楽に関する道具・用具の種類の説明（ベッド、マットレスなど）</li> <li>・移乗・移動時の補助具の説明（車椅子、杖、歩行器、スライディングボード、リフトなど）</li> <li>・利用者、介護者の双方にとって負担の少ない移動、移乗の支援方法</li> <li>・利用者の自然な動きの活用</li> <li>・体位変換、車椅子の介助について</li> <li>・移動と社会参加の留意点と支援</li> </ul> <p>【演習実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具に関連する演習を行う</li> <li>・移乗・移動の介護に関連する演習を行う</li> </ul> <p>【通信学習課題】</p> <p>廃用症候群の症状。麻痺の障害部位について。ボディメカニクスの基本原理。基本的な体位について。福祉用具（杖の種類、車いす・杖歩行の介助）。</p>
イ⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4	3	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師による講義のほかパワーポイントを活用し理解を深める。</li> </ul> <p>【演習実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分かれて食事介助を行う。</li> </ul> <p>【通信学習課題】</p> <p>摂食と嚥下の5分類。食欲について。疾患に対応した食事。</p>
イ⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	6.5	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴、清潔保持に関する基礎知識</li> <li>・入浴用具活用法</li> <li>・入浴時のリスク軽減の為の留意点（環境整備・バイタルサイン測定等含む）</li> <li>・目・鼻・耳・爪の清潔方法とスキンケア</li> </ul> <p>【演習実施方法】</p>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッド上での全身正式の実技指導</li> <li>・ベッド上での洗髪の実技指導</li> <li>・ベッド上での部分浴（手浴・足浴）の実技指導</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 入浴、清潔保持の意義。入浴における身体への影響。
イ⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	6	1	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄に関する基礎知識</li> <li>・様々な排泄環境整備と排泄用具の活用方法</li> <li>・自立に向けた排泄援助</li> </ul> <b>【演習実施方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッド上での排泄介助の実技指導（手順や方法）</li> <li>・トイレ、ポータブルトイレの排泄介助</li> <li>・排泄用具の活用についての実技指導</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 排泄のしくみ。尿失禁の種類、症状とその対応。便秘予防について。
イ⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	2	1	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠に関する基礎知識</li> <li>・安眠の為の介護の工夫と環境整備</li> </ul> <b>【演習実施方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッド上での安楽な体位</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 睡眠について。褥瘡の発生原因。褥瘡の好発部位。
イ⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	7	6	1	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期に関する基礎知識（ターミナルケア・緩和ケア）</li> <li>・死に向きあうこころの理解</li> <li>・高齢者に多い死の原因と兆候</li> <li>・苦痛の少ない死への支援</li> </ul> <b>【演習実施方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DVDの視聴によるターミナルケアの理解</li> <li>・事例検討</li> </ul> <b>【通信学習課題】</b> 死が近づいた時の徴候と介護。死にゆく人の苦痛。キューブラ・ロスの死の過程。看取りの介護の基本態度。グリーフケア。介護職員の看取りでの言動について。
ウ⑬介護過程の基礎的理解	5	5	0	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の意義、目的の理解を深める。</li> <li>・介護計画を立案する上で他職種連携の重要性を理解する。</li> <li>・アセスメントの重要性を理解する</li> </ul> <b>【演習実施方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習を通じて実際に介護計画を立案することで、介護過程の理解を深める。</li> <li>・事例を基に、個人ワーク及びグループワークの実施</li> <li>・実際に介護過程のプランを記入</li> </ul>
ウ⑭総合生活支援技術演習	7	7	0	<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで講義で学んだことの復習（認知症の理解・介護過程の理解）</li> <li>・介護を行う上での留意点及び、視点の理解。</li> </ul> <b>【演習実施方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を基に、グループワークを行う。その後、演習を通じて、グループのメンバー同士で、提供する技術のチェックを行う。</li> <li>・事例を通して、生活支援技術を提供する流れの理解と技術を習得する</li> </ul>
(合計時間数)	75	63	12	

使用する機器・備品等	視聴覚機器・爪切り、歯ブラシ、コップ、衣服・車いす・マットレス・電動ベッド寝具一式・安楽枕・パイプ椅子・ベッド・シーツ・寝具・洗面器（清拭/足浴用）
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 122

商号又は名称：社会福祉法人さつき福祉会

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	① 研修全体を振り返り、学んだことの整理・復習を行うと共に、よき介護者となる動機づけを促す。 ② 対人援助の難しさ・奥深さに直面し行き詰った時にも、学び続ける事、専門職としての知識や技術の研鑽で豊かな介護の意味を再度強く認識する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	2	2	0	【講義内容】 ・受講生本人に、研修を振り返って学んだこと（初めて知ったこと、これから介護職員として働くにあたって大切だと思うこと）を各自に記述してもらって発表。 ・講師は受講生の発表の中からポイントを拾い、これまでの研修の復習・確認となる部分の内容を講義。
② 就業への備えと研修修了後における事例	2	2	0	【講義内容】 ・介護職の働く現場を知ってもらうために、各職場の現状を映像で紹介する。 ・質疑応答で就業への備えとする。
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。